

「平成 29 年度一関活性化プログラム」

～イノベーション その質と信頼性を高める～

学校名	岩手県立一関第二高等学校
-----	--------------

1 第 1 回研修会 CM制作に向けて

5 年前にもちサミットにオリジナルキャラクターを申請し公認になった経緯から「もちダンス」の動画をつくる指示を受けていたことから本プログラムのCM制作を試みることになり、6月22日(木)第1回研修会を行った。講師に株式会社はなぶさ代表取締役社長 佐藤孝範氏をお願いし映像制作のための技術について講義をいただいた。研修会を終えて、3年5組34名がグループに分かれ「もちサミット」のキャラクターを使いクレイアニメ制作に取り組むことになった。

2 第 2 回研修会 工場見学会

2020年東京オリンピックの金メダル製造に着手しているニッコー・ファインメック株式会社の工場見学会を6月27日(火)に行った。代表取締役 小野寺真澄様を訪問させていただいた。同社はゲーム機やパソコンなどの小型家電の基盤から金・銀やプラスチックなどを取り出し、メダルを製造するための取り組みを行っている。また一関市では図書館や公民館などに啓発用ポスターや回収ボックスを置いて市民あげて取り組んでいることが分かった。メダルプロジェクトを機にリサイクルにも関心を寄せる良い機会になった。

3 第 3 回研修会 高田高校缶詰仕入れ

2011年3月11日の東日本大震災以降、県立高田高等学校海洋システム科の製造した缶詰を仕入れ、本校の文化祭である「二高祭」でビジネス系列の生徒がPRICの事業の一環として販売活動を行っていることから、今年は、生徒の手による仕入活動から取り組みたいとの声を生かすために研修会を開催した。8月22日(火)には高田高校に赴いて、実際に缶詰の製造過程を見学することはできなかったが、当日はパン製造を実習として行っており、実習棟を見学することができた。また震災展示室にご案内をいただき、図書館の本棚が倒壊しないよう突っ張り棒で地震対策を施したり、「津波から身を守るために」と題して7項目におよぶ教訓を日本語と英語の二カ国語で表記していたところが生徒には印象深かった。さらに「奇跡の船」と命名したが、高田高校の実習船が津波で流され、約8,000キロ離れたアメリカ・カリフォルニア州クレセントシティに漂着し、現地の高校生が返還を呼びかけ、日本郵船などが輸送を支援し、戻ってきたことなども写真などで知り、貴重な訪問になった。

4 第 4 回研修会 全国ご当地もちサミット in 一関試食会

10月13日(金)には全国ご当地もちサミット in 一関実行委員会よりお招きを受け、実際のもちサミットではどのような商品が販売されるのか、予め知る必要があるとのことから試食会に参加させていただいた。その目的は高校生という若者の視点から販売予測や、もちサミットとしての市場性について意見を述べると共に、今後の商品開発の一助にすることとした。試食会への出店は18団体(当日の参加は29団体)となり、参加率は62.1%であった。出店者の各ブースで試食する生徒に対して、出店者の方々がコメントを求め、それに対して参加した生徒は、11月中旬という季節感を想定しながら出店者の方々に思いを伝えていた。試食会を終え、岩手県立大学総合政策学部教授山本健先生からアンケート調査の依頼を受け、当日は会場管理係というボランティア活動の他、来場者に対するアンケート調査を行うことになった。生徒らは県立大学からの依頼を受け、緊張した面持ちで説明を聞き入っていた。

5 第 5 回研修会 テーマソング&映像発表会

10月24日(火)には「一関活性化プログラム プロモーション戦略としてのクレイアニメ

への取り組み」をテーマに、クレイアニメとプリック(PRIC)テーマソングの発表会を行った。クレイアニメに関して、第1回研修会でご指導をいただいたその集大成という形で発表会を行った。講師には株式会社はなぶさ代表取締役社長 佐藤孝範氏、一関スマートフォンマーケティング協会会長菅原利和氏をお招きして行った。ストーリーや音楽を入れる工夫などの改善点もご指導いただいた。またテーマソングについては生徒による作詞作曲と吹奏楽部の生徒を中心にリズムカルな曲が出来上がった。これまで PRIC を立ち上げて6年目にして初めて出来上がったテーマソングであった。さらにクレイアニメを修正と改善を加え、「全国ご当地もちサミット in 一関の公式ホームページに掲載できることを目標に完成を目指したい」との生徒の意気込みが伝わった研修会となった。

6 第6回研修会 全国ご当地もちサミット in 一関データ分析研究会

全国ご当地もちサミット in 一関が11月11日(土)より12日(日)にかけて二日間の日程で行われた。そこで本校生徒は会場管理係としてのボランティア活動を行うことになった。さらに10月24日(火)に岩手県立大学よりアンケート調査の依頼を受け、のべ24人の生徒がアンケート調査に乗り出した。調査件数は478件に及んだが年代別を見ると、アンケート調査の取り方には偏りが出てしまった。このことは生徒がすべての年代の方々とコミュニケーションを交わしながらアンケートのお願いができなかったという行動結果が見えてきた。今後の大きな課題を発見できた。こうした当日の動きの中から、12月14日(木)に山本教授による講演会が行われた。講演の中で山本教授は「市外からも注目されているもちサミットになりつつあり、仙台市を含む宮城県からの来場者もあり注目されているイベントであることが分かった。クルマによる来場者がほとんどで、駐車場スペースの確保について課題が見えてきた。効果的な宣伝方法としてはSNSで知った人たちも多く、その影響力も大きいことが分かった」と次回の課題も含めて講演を行った。この講演には全国ご当地もちサミット in 一関実行委員会事務局の方々も熱心に聞き入っていた。

以上、平成29年度一関活性化プログラムにおけるすべての研修会の報告である。

